

南三陸町震災復興記念公園をあるまじくの会

2020.11.25 14:00 ~ 16:00

14:00 ~

中橋のたもとに集合!
志津川まち協の及川会長より
あいさつ

- 参加団体名 役場、オカルト研究会
志津川地区まち協、サステナビリティセンター
ネイチャーセンター友の会、カモメの虹色会
南三陸町観光協会、YES工房
まらまら未来、アマタ 譲寛
(協力:復興みらい会)



みなで中橋を渡る。
初めて行く人も多人ほど
結構高い(12m)ので
橋の上はドット半するとい声も

橋のらんかんにかもめのフンが多い
→鳥インフルに用心してあかり触らない方が
看板の上に止まらないよう
ビーム線などで
予防線を!



築山のてっぺんには防災グッズがベンチの下に保管されている
→でも使い方を知らなければ役に立たない
→この場で使い方の訓練をしたい!



この後、みらまの森(10)防災庁舎を回って、社務所へ。

みらいは最高!
森里海ひとみんな見える!!
山の軸、海の軸の
交差点ところ!!

15:00 社務所にて、意見交換TIMEスタート!



まず全員から感想を聞く。

- ・思った以上に良かった!周りの自然と共に考えたい
- ・良い運動になる、志高などとタイアップして!
- ・新しい視点に気づけた(建設課)など。一方では



- ・みらいの森の栄養不足心配
- ・草刈り大変(建設課)
- ・使うルールを早く決めよう
- ・中橋の今後についても今から!
- ・使い方に幅を!
- ・案内をもっと窓口をつくる
- ・関わり方がみえていない

15:20

まち協がこれまでの経緯を伝え、
公園を管理する、とい
名目ではなく....

- ・イベントと抱き合わせで行く。
- ・関わる団体にメリットがあれば続く
- ・高校生は巻き込みやすい
- ・何度も歩く機会を作って感じてもらう
- ・楽しいプロジェクトを通して結果的に
きれいになる、とい展開が理想

何ができるかと同時に、共通のビジョン
を、今回は出し合うことになりました



あやしい団体... 名前はまだない。

南三陸町震災復興祈念公園を長期的に維持するためには…！？

まちづくり協議会でのあゆみ

志津川地区まちづくり協議会では、南三陸町震災復興記念公園の開園に向けて、公園をどのように活用していくべきか、長期的に維持していくためにどんな取り組みが必要か、そのためにどんな人たちが協力し合う必要があるか、そしてそのためにどのような条件や体制がふさわしいのかという点について、部会をとおしてのワークショップや役員会、有志の会との意見交換等を行ってきました。そして、令和2年度には「南三陸町震災復興祈念公園を町民参加で活用していくための提言」をまとめ、提出しています。以下の課題と対応策の検討が必要だと考えています。

震災復興祈念公園への課題と対応策

①まずは、南三陸町震災復興祈念公園を知ってもらうことが必要！

公共の公園であるため、町にいるみんなの公園ですし、祈りの場はあるものの、日常的に訪れたり子どもと遊びに来たりして良い場でもあります。しかし、祈りの場の印象が強いため、町民でもなかなか気軽に訪れてはいけない印象を持っている人もいます。まずは、公園に気軽に訪れることができる機会を創出し、公園をどうしていきたいか一緒にかんがえたい仲間を増やすことが必要だと考えます。

②次に、知ってもらったうえで公園を守っていくためにどうしたらよいかをみんなで考える！

公園に関心のある人たちが集まったところで、公園をどのように使いたいのか、どんな企画ならもっと人が集いやすいか、将来的にどんな場所になっていくと良いかなどを考えて意見交換をしていく必要があると考えます。そして、公園の関係者たちで年間企画や楽しく維持管理できるキャンペーンイベントなどを企画して、効率よく回していきたいと考えます。ぜひ、皆さんとも一緒に考えていきたいです。

③そして、みんなで無理なく協力し合える体制を構築して守っていく！

どう使いたいのかやどういう体制が無理ないかを話し合ったうえで、公園を守っていくようなプロジェクトを発足し、さまざまな関係者と共に役割分担をしながら公園を守っていけるよう動き出したいです。

STEP1:公園を知る

- ・どんな公園？
- ・どう使っている？

STEP2:公園を考える

- ・この先どう使う？
- ・この先どう残す？

STEP3:公園を維持する

- ・どんな方法がいい？
- ・どんな体制がいい？

例えばこんなことできない？

まだまだ話にあがった妄想ですが、こんなことを考えてました！

町が全体的な管理はするものの、町民が使わない、来訪者が訪れにくい公園に税金がただ投入されていくのではなく、町民が身近に感じ、それが教育やまちづくりにも繋がりが、そして訪れた人たちにも特別な場所になることで、税金が使われることにも納得がいくし、今後減っていく人口の中で税収が減っても守って行ける公園維持管理の仕組みを構築したいと考えています。

例えば、教育や福祉の面では草刈やごみ拾いなどを年間行事に入れてもらい、守り手の一員になってもらう。有志団体関連はできる企画とクリーンアップ運動を抱き合わせて行う。観光や商業はビジネスと組み合わせる。町はそれらのバランスを見て必要に応じて事業化し発注する、などです。

